

優秀賞

私の母子手帳

福岡県 松本沙月

先日、私は母がしていた棚の整理を手伝った。その時、大切そうに直された2冊の母子手帳を見つけた。それは私と妹の母子手帳だった。私の母子手帳を開くと、生まれてまもない私の写真があった。私は写真を見ながら、「私が生まれたときって嬉しかった？」と母に聞いた。すると母は、「当たり前じゃん。とても嬉しかったよ。」と、笑って答えてくれた。それから私は母子手帳を読み進めることにした。

私はよく晴れた日の1994年、5月23日、午前11時18分、分娩室の外で父と祖父母が待つなか生まれた。母は普通分娩ではなく、帝王切開で私を生んだそうだ。父と祖父母は無事に生まれ、元気に泣く私を抱いたとき、涙をこぼして喜んだという。しかし母は麻酔から目がさめても点滴や手術後だったため、私をすぐには抱けなかったらしい。母子手帳の2ページ目を開くと『5月26日。まだ沙月に一回も会っていない。早く会いたい』と母の字で記されていた。そして2ページ目を開くと、そこには母と壊れそうなくらい小さな私が写った写真が貼ってあった。その下には『5月27日。やっと沙月に会えた。お父さんとお母さんの間に生まれてきてくれてありがとう』と書かれてあった。私はすごく嬉しかった。そして何より父と母のもとに生まれてよかったと心から思った。私が生まれたあの日から、両親や祖父母の胸の中で愛され、この15年を生きてきたんだ。だから私はこの尊い命を大切に、今を私らしく生きようと思う。そして、生きている限り、こう思い続けるんだ。「お母さん、私を生んでくれてありがとう。」と。